

森林ふれあい活動に関する考察 より良い森林浴を目指して

山形森林管理署 中村 誠司

1 はじめに

林野庁では、平成10年10月には国有林野改革特別措置法等の改正により、国有林を「国民の森林」と位置付け、平成13年3月には森林・林業基本法の改正により、森林の有する多面的機能の発揮を基本理念として国民の多様な要請に応えることを目指しています。これにより、東北森林管理局、山形森林管理署では、一般者を対象に自然とのふれあいの場を提供し、森林や林業についての理解と普及啓発を図るために森林ふれあい活動を実施しています。

私も山形森林管理署が行っている森林ふれあい活動に同行して、もっと国有林をアピールするにはどうすればよいか、参加者に森林・林業に対する知識をもっと深めてほしいと思うようになりました。今回、当活動に参加している方たちが、このような活動に対してどのような意見を持っているか調査し、よりよい森林ふれあい活動を行うためにはどうすればよいのか考察したので発表します。

2 事業内容

表一1は、東北森林管理局が今年度行った森林ふれあい推進事業で「森林倶楽部」という名称で行っています。表一2は、山形森林管理署が今年度行った森林利用ガイド事業で「森林浴の集い」という名称で行っています。共に、一般参加者を対象に森林内で、草花・樹木の名前や特徴などを教えながら、登山あるいは森林浴を行って森林・自然に親しんでもらうことを目的としています。

参加者の募集方法については、「森林倶楽部」では、4月にインターネットのホームページに掲載し、1年間の会員を150名程度募集しています。イベント参加として4,000円程度の参加費を頂いています。「森林浴の集い」では、前年度参加者に今年度の予定一覧を送付し、開催場所となる各市町村の広報に掲載をしています。イベント参加者には、参加費として1,000円～2,000円を頂いています。共に資料代、記念写真代や各施設利用費、保険料として使用しています。

開催回数としては、「森林倶楽部」は14年度に秋田県と山形県でそれぞれ2回ずつ計4回を計画し、土曜日に開催しています。「森林浴の集い」は、年8回を計画し、平日に開催しています。

表一1 平成14年度 森林倶楽部活動内容

実施回数	開催日時	イベント名	参加者数
第1回	6/8(土)	森の巨人「女甕の大カツラ」と新緑を求めて	74
第2回	7/6(土)	白神山地「田苗代湿原」のお花畑を訪ねて	79
第3回	10/5(土)	奇岩と溪谷美の神通峡・大頭森風景林を歩く	34
第4回	10/26(土)	紅葉の抱返溪谷と「百尋の滝」を訪ねて	63

表一 平成14年度 森林浴の集い活動内容

実施回数	開催日時	イベント名	参加者数
第1回	4/23 (火)	三吉山・葉山を訪ねて	35
第2回	5/22 (水)	新緑の甑岳を訪ねて	34
第3回	6/20 (木)	蔵王中丸山の自然探勝	27
第4回	7/17 (水)	孤高の名花 コマクサの観賞	25
第5回	8/8 (木)	雁戸山登山と高山植物観賞	36
第6回	9/12 (木)	初秋の南面白山を訪ねて	33
第7回	10/22 (火)	蔵王中央高原散策と紅葉観賞	28
第8回	3/7 (金)	千歳山の落葉樹 冬芽観察	30 (予定)

3 調査方法

対象者は、東北森林管理局が行っている「森林倶楽部」と山形森林管理署が行っている「森林浴の集い」の参加者に森林ふれあい活動に関するアンケートを実施しました。

アンケートは森林ふれあい活動に関するもの、インストラクターに関するもの等、24項目の設問に対し、当てはまるものにマルを付ける方式で、各活動終了時までにはアンケートを回収しました。

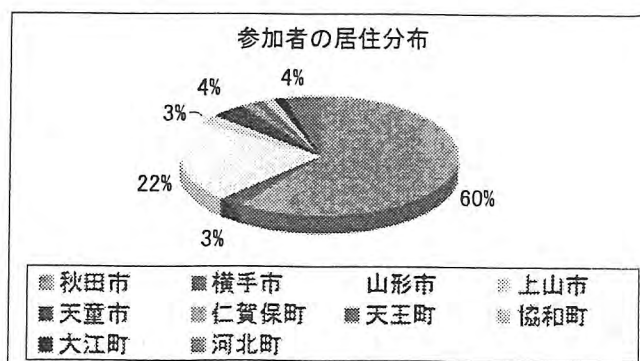
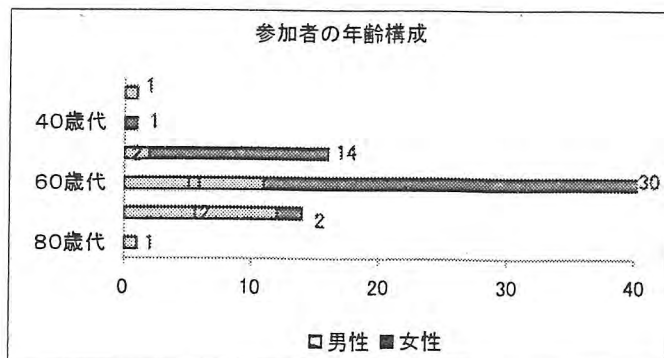
今回は日程の関係もあり、第3回、第4回森林倶楽部参加者34名、55名、第6回、第7回森林浴の集い参加者33名、10名、合計132名に対して行い、117名からの回答を頂き、回収率は89%でした。

なお、第7回森林浴の集いの10名は初めての参加者を対象に行いました。

4 アンケートの結果

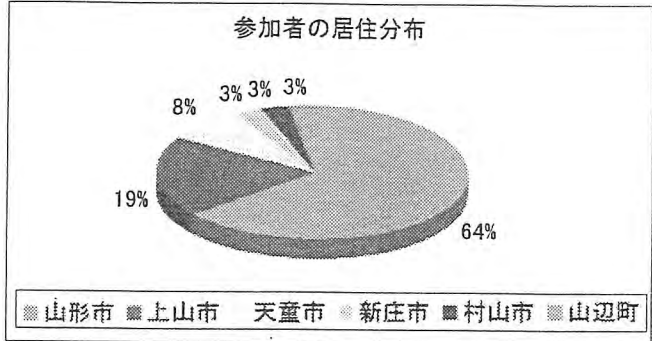
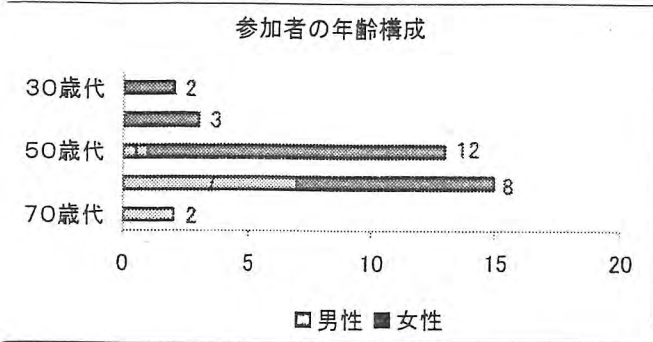
(1) 参加者の年齢構成と居住分布

下図は森林倶楽部の参加者の年齢構成と参加者の居住分布図です。参加者の年齢構成は、30歳から80歳と幅広いですが、50歳、60歳に参加者が多くなっています。また、居住分布では、秋田市を中心に横手市、山形市、上山市、天童市と9割が市内から参加しています。



森林倶楽部参加者対象

下図は森林浴の集いの参加者年齢構成と参加者の居住分布図です。
 参加者の年齢構成は、30歳から70歳の方が参加して、50歳、60歳を中心に参加者が多くなっています。参加者の居住分布でも、山形市をはじめ上山市、天童市等、ほとんどが市内から参加しています。



*** 森林浴の集い参加者対象**

共に、50歳、60歳の方を中心に全体的に中・高齢者の方の参加が多くなっています。参加者の居住地分布では、秋田市、山形市等、都市部からの参加が多いことがわかりました。これは、都市部の人ほど森林とのふれあいの場を求めて今回のイベントに参加していると考えられます。

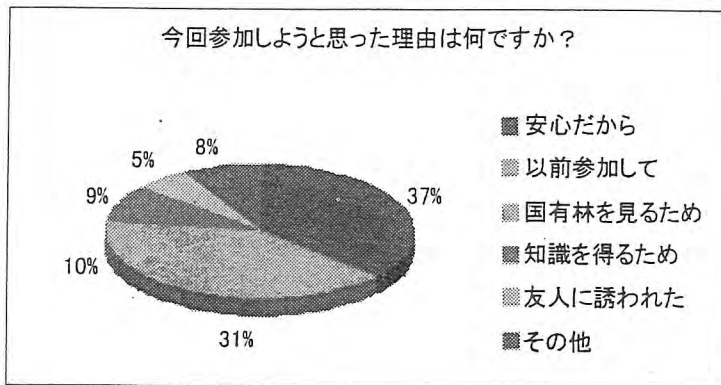
(2) 参加するにあたって

ア 参加動機

今回のイベントに参加した理由として、「安心して森林浴ができるため」が37%と最も多くなっています。これは、先程の参加者の年齢構成でも判るように個人で森林浴を行うより、グループで行動をとる方がいいと参加者が考えていると思われれます。

また、参加者から、「一人では森林に入ることができないけど、みんなで行くから安心だ。」「参加者同士で話すことで友人もできる。」といったことを聞くことができました。

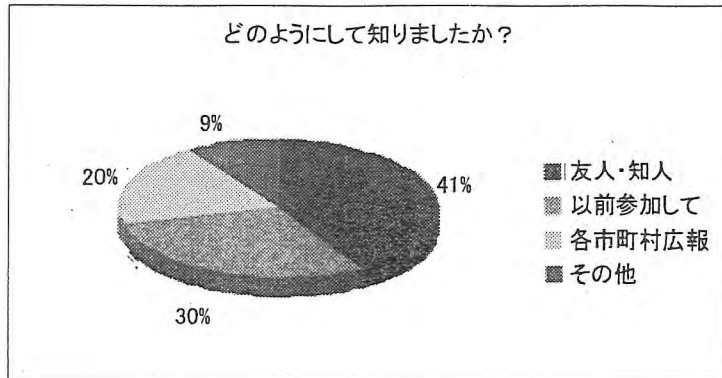
次いで「以前参加して楽しかったため」が31%となっており、リピーターの参加者数の多さをあらわしていると考えられます。



*** 以下、森林倶楽部、森林浴の集い参加者対象**

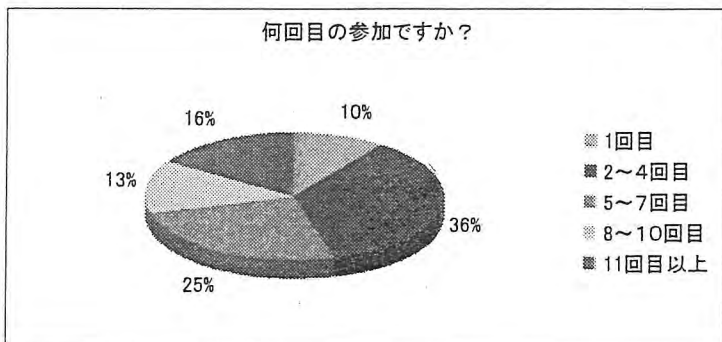
イ どのようにして知りましたか

「友人・知人を介して」が41%、「以前参加して」が30%と7割が参加者を介してイベント活動の普及が行われていると思われます。「各市町村広報」は20%となっています。これは、森林倶楽部では会員制で、森林浴の集いでは年間スケジュールを参加者に知らせているために、広報を見る以前に参加申し込みが行われているためだと考えられます。



ウ 何回目の参加ですか

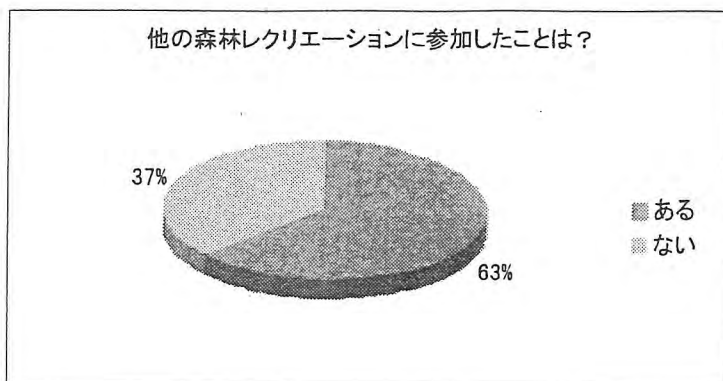
「1回目」が10%と最も少なく、次いで「2～4回」が36%、「5～7回」が25%となっています。前述した参加理由の「以前参加して」が31%あったように、参加者のほとんどがリピーターであることがわかります。



(3) 当活動以外のイベントについて

ア 他のレクリエーションに参加したことは

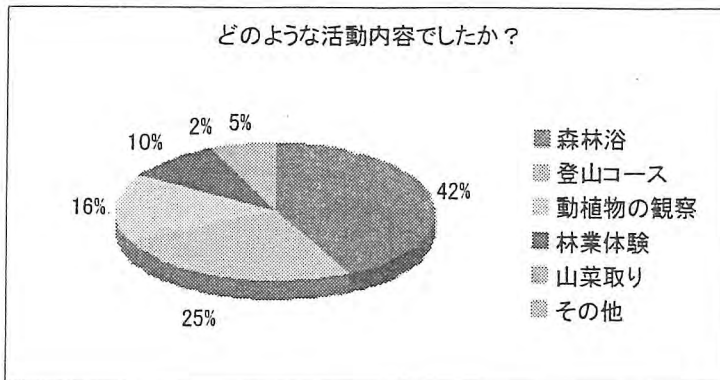
当活動以外のイベントに参加したことはありますかという質問には、今回のイベント参加者のうち、63%の人が他のイベントに参加しています。



イ 他のイベント内容

他のイベント内容では、「森林浴」、「登山」、「動植物の観察」と8割方、私たちが行っている活動内容と違いはありませんでした。しかしながら、「林業体験」「山菜取り」といった内容が少数ながら見ることができます。

これからも、活動内容は、他と変わりはないと考えられます。そこで、これからはより細かく参加者の年齢、体力に応じた活動内容を設定することが必要になってくると思われます。



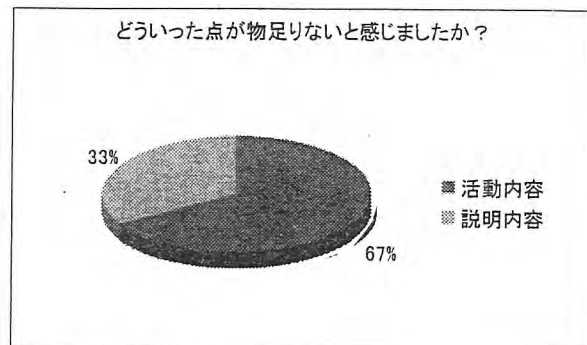
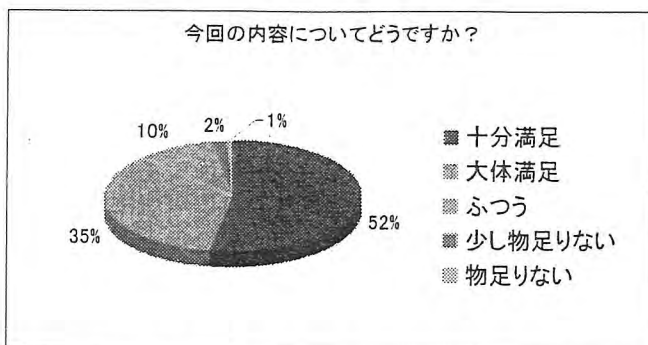
(4) 参加しての評価

ア 今回の内容について

ふれあい活動の内容については、「十分満足」「大体満足」が全体の約9割弱を占め、活動内容として参加者から多くの支持をえています。しかしながら、ごく少数ながら「少し物足りない」「物足りない」といった意見もありました。

こういった点が「物足りない」と感じたかという「活動内容」「説明内容」があげられました。

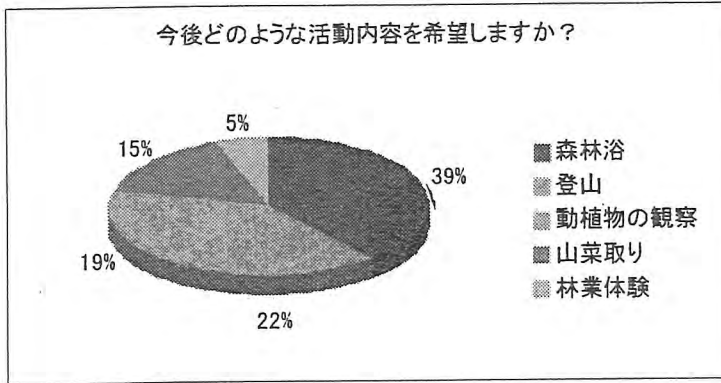
「活動内容」では「森林浴と思って参加したが登山だった」「班分けを上級者と別々にしてほしい」「昼休みが十分取れない」「1班と2班がはなれすぎて行動がともにとれない」等の意見がありました。「説明内容」では、「インストラクターの説明が簡単すぎる」「列が長くなって説明を全部聞けない」「声がみんなにとどかない」等の意見がありました。これらの意見を今後のイベント活動に活かしていく必要があると思われます。



イ 今後どのような活動内容を希望しますか

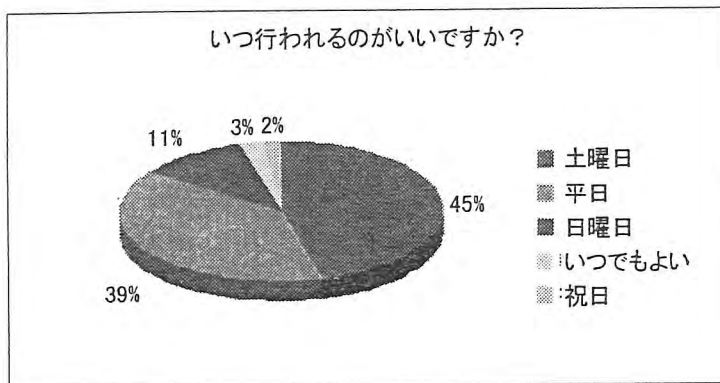
参加者が今後どのような活動内容を希望しているかは、「森林浴」が39%、

「登山」が22%、「動植物の観察」が19%と全体の約8割が今までの活動内容を希望しています。残りが「山菜取り」、「林業体験」と今までのような森林とのふれあいを目的としたものから森林内での活動を目的にしたものも希望していると考えられます。



ウ 開催日について

開催日については今まで「森林倶楽部」では土曜日、「森林浴の集い」では平日に行われていますが、参加者は、「土曜日」を45%、「日曜日」を11%の人が希望しています。次いで「平日」を希望している人が39%と多くなっています。これより、「平日」よりも、「土曜日」、「日曜日」の方が休日の利用方法としてより幅広い参加者を求めることができると考えられます。また、「平日」が多くなっているのは、参加者に中・高齢者が多く、時間に余裕のある方が多いためだと考えられます。



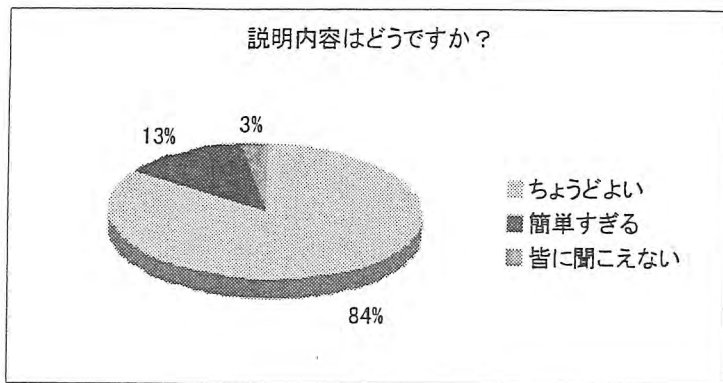
(5) インストラクターについて

ア 説明内容はどうか

インストラクターは道程、参加者に対して草花・樹木の名前や特徴等を説明しています。また、登山時には周りの景色・山の名前等も説明しています。

こういった説明内容はどうかという質問には、「ちょうどよい」が84%と大部分を占めていますが、「簡単すぎる」と答えた方が13%と次いで多くなっています。わずかながら、参加者の知識の格差が現れていると考えられます。

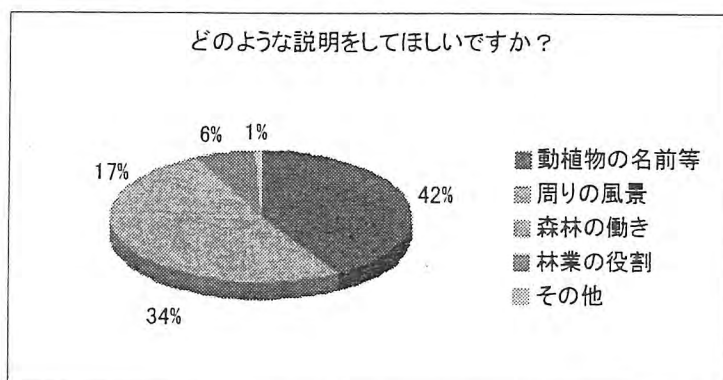
「皆に聞こえない」というのは各班の列が長くなり、説明をしても参加者が聞き取れなかったり、後ろの人が聞こえなかったりする場合が考えられます。



イ どのような説明をしてほしいか

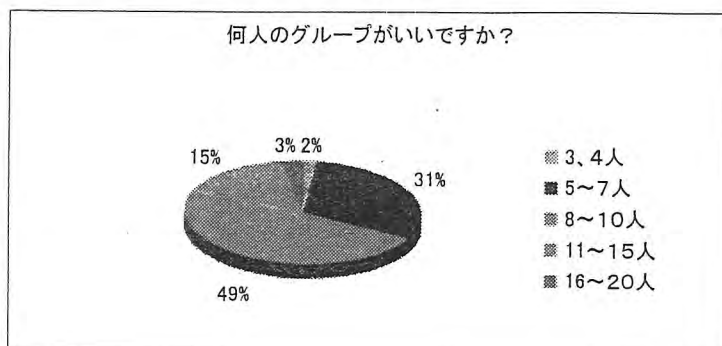
どのような説明をしてほしいですかという質問には、「動植物の名前」が42%、「周りの風景」が34%と今までの活動で行ってきた説明内容が約7割となっています。

その他に「森林の働き」が17%、「林業の役割」が6%となっています。最近、環境に対する関心を持っている人が増えている状況の中、これらのことを説明することによって私たちが国有林でどのようなことを行っているのかアピールすることにもつながると思います。



ウ 何人のグループがいいですか

何人のグループがいいですかという質問には「8～10人」が49%と最も多く、次いで、「5～7人」の31%となっています。また、参加者から「インストラクターの声が聞こえにくい」「皆に聞こえるようにマイクを使用してほしい」等、声が聞こえにくいという感想がありました。このことから、10人程度のグループが最適だと考えられます。



5 まとめ

アンケートの結果、森林ふれあい活動に対して約9割の参加者は満足していただき、ごく少数の方から不満の声をいただく結果となりました。これをもとに、さらにより良い森林ふれあい活動を行えるよう考察させていただきます。

まずは、「参加者の高齢化と固定化」があげられると思います。全体的に50歳から60歳を中心に参加者が固まっている状況です。そのため、参加者の年齢層を広げるために、活動内容の多様化が必要になると考えられます。

森林ふれあい活動の開催曜日は土曜日、日曜日といった希望が多くなっていることと、小学校の週休2日制導入から、地域ごとの小学校を対象としたものや、小学校の夏休み・冬休みといった長期休暇時に親子で参加できるもの、実際に林業を体験する林業体験教室など、小学生を対象としたものや、親子で参加できるものを計画することも1例だと思います。また、募集の受付時に先着順ではなく、抽選にすることにより広報を見て申し込む人にも参加できるように配慮する必要がありますと考えられます。

また、参加者の年齢、体力、知識、登山の熟練者か初心者であるか等に応じてグループわけを行うことが、このような活動において重要であると考えられます。それにあわせて、活動の場所も適切な個所に設置することが必要になってくると思います。

もう1つは「説明内容の充実」です。インストラクターの説明には、ほとんどの参加者がちょうどよいと答えてくれました。しかし、列になって活動するために、インストラクターの話し声が、後ろの参加者には聞き取れないようです。アンケートの感想にも、拡声器を使用するよう求める声がありました。また、動植物の名前や周りの風景の説明を約7割の人が求めています。森林の働き、林業の役割といった環境との関わりについての説明を求めています。そうした中、環境と森林の関係や、森林と林業の関係等、森林・林業の重要性を参加者に説明するのも必要だと思います。

また、アンケートの中で東北森林管理局や山形森林管理署がどのようなことを行っているか知っていますかという質問に、約半数の方があまり知らない、知らないと答えています。私たちが普段フィールドとしている国有林において、実際にどのようなことを行っているか参加者にアピールできる絶好の機会です。国有林が、もっと身近に感じられ、「国民の森林」への重要な窓口としての森林ふれあい活動になるよう、これらのことを説明することが大切な方法だと感じました。